

平成20年度 事業報告

社会福祉法人 福岡育児院

(1) 事業実績

【定員 95名】

| | | | |
|-------|-------|------|-------|
| 入所定員 | 95名 | 延人員 | 1140名 |
| 平均入所数 | 70.4名 | 延入所数 | 845名 |
| 入所率 | 74.1% | | |

§ 職員数

| 施設長 | 次長 | 主任指導員 | 家庭支援専門相談員 | 指導員 | 保育士 | 心理療法士 | 栄養士 | 調理員 | 事務員 | 計 |
|-----|----|-------|-----------|-----|-----|-------|-----|-------|-----|--------|
| 1 | 1 | 1 | 1 | 15 | 5 | (2) | 1 | 4 (1) | (2) | 29 (5) |

() はパート職員

§ 入所児の年齢別調

| | 平成20.3.31 | | | 平成21.3.31 | | |
|-----|-----------|----|----|-----------|----|----|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 |
| 幼児 | 10 | 6 | 16 | 9 | 7 | 16 |
| 小学生 | 21 | 12 | 33 | 20 | 7 | 27 |
| 中学生 | 8 | 8 | 16 | 6 | 10 | 16 |
| 高校生 | 3 | 4 | 7 | 6 | 2 | 8 |
| 合計 | 42 | 30 | 72 | 41 | 26 | 67 |

§ 入所児 (理由別) H21.3.31 現在

| 措置理由 | 人数 |
|--------------|-----------|
| 父母の死亡 | 0 |
| 父母の行方不明 | 4 |
| 父母の不和 | 0 |
| 父母の拘禁 | 5 |
| 父母の入院 | 11 |
| 父母の就労 | 9 |
| 父母の性格異常・精神障害 | 0 |
| 父母の虐待 (放任) | 9 |
| (身体的) | 4 |
| (心理的) | 0 |
| (性的) | 0 |
| 養育拒否 | 1 |
| 破産等の経済的理由 | 9 |
| 不登校 | 0 |
| その他 | 15 |
| 合計 | 67 |

※ 措置理由の内訳については、児童票の養護内容欄に記載されている分の集計です。

§ 退所人員（理由別）調

H20. 4. 1～H20. 3. 31

| | | 父のみ | 母のみ | 両親 | その他 | 計 |
|--------|----------|-----|-----|----|-----|---|
| 退 所 | 家庭引取り | | 1 | 2 | | 3 |
| | 他施設へ | | 1 | | | 1 |
| | 進学（専門学校） | | | | | |
| | 就職（行方不明） | 1 | 2 | | | 3 |
| | その他 | | 2 | | | 2 |
| 合 計 | | 1 | 6 | 2 | | 9 |

§ 帰省状況

イ. 夏休み 〈8月12日～15日を中心に10日以内〉

8月13日在籍数 70名

- お盆里親 5名 7% 8月12日～15日
- 帰省児童 25名 36%
- 居残児童 40名 57%

ロ. 正月 〈12月30日～1月3日を中心に10日以内〉

12月30日在籍数 70名

- 里親 2名 3%
- 帰省児童 35名 50%
- 居残児童 33名 47%

§ 入所児童の進路・進学状況

①高等学校卒業 男子 1名 ・ 女子 2名

- 就職 株式会社エルパッケージ 男子 1名
- 就職 有限会社 ダイゼン 女子 1名
- 就職 福岡総合警備保障株式会社 女子 1名

②箱崎清松中学校卒業 男子 2名 ・ 女子 3名

- 高等学校進学 魁誠高等学校 〈総合学科〉 男子 1名
- 立花高等学校 〈普通科〉 男子 1名
- 福岡高等学校 〈普通科〉 女子 1名
- 博多女子高等学校 〈トータルビジネス科〉 女子 2名

③博多幼稚園

- 年中 男子 1名 ・ 女子 1名
- 年長 男子 4名 ・ 女子 3名

(2) 児童支援について

★養護目標

- ① 入所児童の権利擁護を基本理念として、子どもを中心に据えた養育の充実と治療的なケアも含め、ひとりの子どもの全職員で向き合い、社会的自立にいたるまでの援助・支援を行う。
- ② 基本的な生活習慣や節度ある態度の涵養と、自らを認める自尊感情や、物事への感謝等人間関係の基礎を培う。
- ③ 学習に励み、勤労を学び、困難にくじけない忍耐力とお互いに協力する精神を育てる。
- ④ 創意工夫する態度を身につけ、自主的に又、合理的に物事を判断する力を養う。

- ⑤ 身の回りの清潔に対する関心を高め、健康に留意する等の衛生観念を養うとともに、美しいものを愛し、豊かな心を育てる。

§ こどもの権利擁護と自立支援

こどもの支援に当たっては、こどもの権利擁護と自立支援のために、次のような重点方針によりこどもの支援を行った。

- (ア) 正しい基本的生活習慣を培い、節度ある態度を育てる。
- (イ) 社会に出たとき信頼され自立できる人間、ひとの痛みがわかる人間、ひとに感謝する気持ちを持つ人間の育成を図ることを自立支援の基本とする。
- (ウ) こどもの個別状況に応じた支援を通して愛着形成と自らを認める自尊感情の一層の確保・増進を図る。
- (エ) グループホームの運営は、年度当初は中高生女子の支援に活用し、8月以降は新入幼児のならば保育に使用した。なお、1月から3月の間は、高校3年生（卒院予定児童）の独身生活の訓練の場として利用し卒院後の一人暮らしの生活のリズムや心の準備をさせた。
- (オ) スポーツを通じた心身の鍛練により、辛抱強さ、集中力、やる気や向上心を培う。
- (カ) 学力の向上のため、職員による学習指導を強化すると共に、学習塾の活用を図る。
- (キ) 夢を持てるこどもを育てる。
- (ク) 処遇職員と心理士の連携により、こどもの情緒の安定・改善を図ると共に、処遇職員のこどもの行動理解・支援技術の向上を図る。
- (ケ) こども用図書の整理・充実を行う。

§ 入所児童の活動状況について

こどもたちは、スポーツ面・文化面や地域活動においても意欲的に取り組んでおり、数多くの成果を挙げています。

- ・ 福岡市児童福祉施設球技大会 ・野球の部 6年連続優勝
- ・ 福岡県児童福祉施設球技大会 ・野球の部 2年連続優勝
- ・ 九州地区児童福祉施設球技大会・野球の部 3位（昨年度優勝）
- ・ 福岡市児童福祉施設球技大会 ・バレーボールの部 準優勝
- ・ 福岡県児童養護施設筑後川ふれあい駅伝大会・駅伝の部 6年連続優勝
- ・ その他の駅伝大会・マラソン大会に参加し、多数入賞
- ・ 福岡県書写展覧会において金賞受賞（小学5年男子）
- ・ 全国共済農業協同組合連合会作文コンクールにおいて入選（小学4年生男子）
- ・ 毎月1回の奉仕活動で地域のゴミ拾いに取り組んでいます。（平成17年10月には福岡市長より表彰を受ける）

§ 年間行事

| 月 | 行事内容 | 月 | 行事内容 |
|---|---|----|--|
| 4 | 部屋移動 幼稚園入園式 小学校入学式 中学校入学式 高等学校入学式 中学校自然教室 | 10 | 芋掘り招待 アイススケート招待 福岡西ローターアクトクラブとの交流会 福岡那の津ライオンズクラブとの交流会 福岡市乳児院児童養護施設協議会合同文化祭 食文化の会招待 福岡子供の家みずほ乳児院お月見会招待 中学2年生修学旅行 |
| | 全日本司厨士協会バイキング食事会 ライオネスクラブとの交流会 小学校との交流会 中学校との交流会 中学校体育会 | | 11 |

| | | | |
|---|--|----|---|
| | 小学校体育会 小学5年自然教室 | | 小学6年生修学旅行 |
| 6 | 福岡市児童福祉施設球技大会 校区ソフトボール・ドッチボール大会 | 12 | 院内クリスマス会 院内大掃除 校区クリスマス会 |
| 7 | 施設自然体験学習 東区ソフトボール・ドッチボール大会 児童面接 福岡県児童福祉施設球技大会 | 1 | 初詣で つばさ合唱団合宿 |
| | | 2 | つばさ合唱団演奏会 校区餅つき |
| 8 | 施設自然体験学習 つばさ合唱団合宿 焼き肉招待 ふれあいお盆里親行事 校区夏祭り 九州地区児童福祉施設球技大会 | 3 | 院内バスハイク 卒院・進級お祝い会 幼稚園卒園式 小学校卒業式 中学校卒業式 高等学校卒業式 |
| 9 | 西鉄招待 幼稚園運動会 福岡乳児院お月見会招待 箱崎宮放生会見学 | | 人形劇招待 アジア太平洋子ども会議参加 |
| | | | ※毎月1回誕生会、避難訓練実施。 |

3 施設の運営状況

- 平成20年度は、4月・5月と院長不在の状況からスタートし、6月に新しい院長を迎えた。
19年度の事件を踏まえ、3月に提出した「改善計画」に基づいた運営に努め、以下の4点を新たに実施した。

- 1, 児童虐待防止プログラム（CAP）を導入。
今年度は職員のみ3回受講したが、21年度も継続し、児童の受講も計画している。
- 2, 第三者評価の受審。
福岡県社会福祉士の第三者評価を全職員・児童参加の下で受審した。
- 3, ケア基準策定の取り組み
日常の課題を洗い出し、内部討議を重ねると共に、外部からの講師を招き、その施設での取り組み実践を伺うと共に、課題についての意見交換を行った。
- 4, 家庭支援専門相談員の採用。
主任級職員として、新たに家庭支援専門相談員を1名採用した。

それ以外にも、日常プログラムである日課について、ひとり一人のこどもの意見も聴き、見直しを図った。

§ 外部職員研修参加実績

| 期 日 | | 人数 | 期 日 | | 人数 |
|-------------|-----------------|----|--------------|-----------------|----|
| 4/18 | 県養協第1回処遇改善特別委員会 | 1 | 11/26 ~28 | 全国秋季セミナー | 3 |
| 6/11 ~13 | 九州児童福祉施設職員研究大会 | 7 | 11/27 ~28 | 市乳児院児童養護施設1泊研修会 | 10 |
| 6/18 | 県養協第2回処遇改善特別委員会 | 1 | 12/2 | 県養協施設長会 | 1 |
| 7/8 | 市乳養協施設見学 | | 12/9 | 県養協担当学年別職員研修 | |

| | | | | | |
|--------------|-----------------|----|-------------|-------------------|---|
| ～9 | | 10 | | | 2 |
| 7/22 | 県養協第4回処遇改善特別委員会 | 1 | 12/15 | 県養協第9回処遇改善特別委員会 | 1 |
| 9/9 ～11 | 西日本児童養護施設職員セミナー | 7 | 1/14 ～16 | 全国児童養護施設中堅職員研修会 | 4 |
| 9/18 | 県養協第5回処遇改善特別委員会 | 1 | 1/16 | 県養協第10回処遇改善特別委員会 | 1 |
| 10/18 | 県養協第6回処遇改善特別委員会 | 1 | 1/22 ～23 | ファミリーソーシャルワーカー研修会 | 1 |
| 10/29 | 県養協研修員会 | 1 | 2/9 ～10 | 県養協職員研修会 | 7 |
| 11/6 | 県養協第7回処遇改善特別委員会 | 1 | 3/4 ～5 | 県養協第4回処遇改善特別委員会 | 1 |
| 11/19 ～21 | 全国児童養護施設長研究協議会 | 1 | | | |

§ 良質な職員の確保と育成

真にこどもの養育に情熱と愛情を持てる職員を確保・育成するため、次のような事を行った。

- (コ) こどものより良い支援を行うには、職員の資質、支援技術等の向上を図る必要があるため、職員研修には積極的に取り組んだ。施設内における職員研修は毎月行い、年間に専門講師による研修を3回行うと共に、福岡市乳児院児童養護施設協議会や福岡県・九州・西日本・全国の養護施設協議会等が主催する職員研修に多数の参加をさせた。
- (サ) 良質な職員を確保するため、福岡県社会福祉協議会の人材センターやハローワーク等を通じた公募による職員採用を行った。

§ 居住環境や職員の執務環境を保持・増進

こどもたちのより良い居住環境や職員の執務環境を保持・増進するために、主に次のことを行った。

- (シ) 設備の点検と修繕（特に空調機のエアダクト内清掃、厨房の排気装置の整備）
- (ス) 公用車の買い換え（1台）

§ 施設運営の透明化の推進

- (セ) 広報誌の発行

福岡育児院の広報誌「ふれあい」第4号を10月に発行し、保護者、地域の方、関係機関等に配布した。

- (ソ) ホームページの充実

施設の運営・経営をより透明化するため、財務諸表を公開し、苦情解決委員会の第三者委員の氏名・電話番号・住所をホームページに公表している。

また、こどもたちのスポーツ活動等の生活状況も掲載し、入所児童に対する理解をいただけるように努めている。

地域との連携を深めていくためにも、まずは福岡育児院の状況をお知らせすることによって、福岡育児院を身近に感じていただくように努めている。今後も、最新の情報提供を迅速に行うようになお一層の推進を図る。

(4) 苦情解決について

本年度は、苦情解決委員会を開催して協議するような苦情はありませんでしたが、再度、苦情解決委員会の第三者委員の氏名、連絡先等、入所児童にわかり易いところに掲示し、入所児童・保護者等への周知徹底に勤めた。